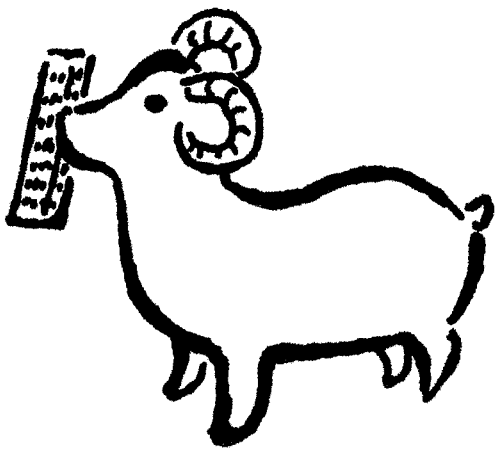
検定試験がはじまる

昭和２年（1927）に山崎与右衛門（昭和29年に珠算史の研究で商学博士の学位を受けた人）の発案によって、東京市立実業学校の生徒に、珠算振興策のひとつとして検定試験が実施されました。この検定試験は、「珠算能力検定試験」という名称で、昭和６年に東京商工会議所に移管され、昭和19年からは全国規模で実施されるようになりました。

この他、全国商業高等学校協会は昭和25年から「実務検定試験」を、㈳全国珠算教育連盟は昭和29年から「全珠連検定試験」を、全国珠算学校連盟は昭和48年から「珠算技能認定試験」を実施しています。

わり算九九が使われなくなり商除法が普及しだした

大正の終わり頃から昭和の初めにかけて、それまで使われていた帰除法に代わって、商除法を採用した方が良いという意見が多くなってきました。そのため文部省は昭和６年（1931）に頭乗法・帰除法を使った甲種教科書と、新頭乗法・商除法を使った乙種教科書の２種の「小学珠算書 教師用」を作成しました。その後、昭和13年になって「尋常小学算術」が編集され、小学校の算術に珠算が採用されたとき、珠算の除法に商除法が記載され、この頃から商除法は全国的に普及していきました。